

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

(2025年9月8日(月)～14日(日))

岸和田聖書教会

牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまに目を向け、みことばによって主を食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。「あなたの口を大きく開けよ。」(詩篇 81:10)

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)。神さまがあなたを呼んでおられます。
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。『みことばの光』は一冊(一ヶ月)430円(注文は栗原弥希姉まで)。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしながら、おやすみなさい。

9月8日(月)

今日の聖書日課：詩篇 82:1～8

神よ 立ち上がって 地をさばいてください。あなたが すべての国々を ご自分のものとしておられるからです。

詩篇 82:8

この地上で不正が横行し、それが一向に改善されない状況の中で、詩人は、神がさばき主であることを悟ります。それゆえに冒頭の聖句。これは82篇の最後の節です。これが詩人の確信でした。

神さまの支配を信じましょう！すべてののは主のものです。

9月9日(火)

今日の聖書日課：伝道者 1:1～18

実に、知恵が多くなれば悩みも多くなり、知識が増す者には苛立ちも増す。

伝道者 1:18

今日から伝道者の書を読みます。いきなり「空の空」と伝道者は言います(1)。すべては空しい、と。彼はそれまでエルサレムにいたれよりも自分は知恵を増し加え、知識を得ました(16)。しかしその果ては冒頭の聖句。知恵が多くなると悩みが多くなり、知識が増すと苛立ちが増すのです。ここから逃れる方法はどこにあるのでしょうか？知恵と知識を与える方を認めることです。自分を神とするのではなく神を神とする。神に与えられた、神のために用いられるべき知恵と知識。その認識が人間をこの悩みと苛立ちから解放するのです。

9月10日(水) 本日は祈祷会の日。みことばの恵みを分かち合いましょう！

今日の聖書日課：伝道者 2:1～26

実に、神から離れて、だれが食べ、だれが楽しむことができるだろうか。

伝道者 2:25

食えること、楽しむこと。伝道者は知恵と知識によって、これらに満たされた生活をしました。

しかし、その行きつくところは「空しい」(23)。そう結論づけるのでした。しかしまた彼は、気づきました。神が、食べること、楽しむことを与えてくださっていることを。そもそも、神抜きに、これらはできないことなのです。

食べること、楽しむこと。もっと積極的に、神さまへの感謝をもって味わいましょう。

9月11日(木)

今日の聖書日課：伝道者3：1～22

神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。

伝道者3：11

最初の文は直訳するとこうです。「神はご自分の時の中で、すべてのことを美しくされる」。人間は「なんでこんなことが起こるのか？」と不可解に思います。しかし、神は常にご自分の時、すなわち計画を持っておられ、すべてのことを美しく変えられるのです。だから私たちにとって大切なのは、この神を見失わないことなのです。

9月12日(金)

今日の聖書日課：伝道者4：1～16

二人は一人よりもまさっている。二人の労苦には、良い報いがあるからだ。

伝道者4：9

よく結婚式で開かれる聖書です。しかしこれは、夫婦のことだけを指しているではありません。純粹に「二人は一人よりもまさっている」というのです。なぜなら「二人の労苦には、良い報いがあるから」。その報いとは何でしょうか？分かち合うということ。心を通わせ喜び合うこと。それは三位一体の神に似せて造られた人間の本質なのです。しかし罪は、人間を人間から引き離し、自分中心に引きずり込みます。神を見出し、そして神がくださった仲間と苦勞も喜びも分かち合ひましょう。

9月13日(土)

今日の聖書日課：伝道者5：1～20

神の前では、軽々しく 心焦ってことばを出すな。神は天におられ、あなたは地にいるからだ。だから、ことばを少なくせよ。

伝道者5：2

伝道者は、神がいない人生の空しさを強調します。と同時に神を認める人生の中において注意すべきことを語ります。その一つが「神の前では、軽々しく 心焦ってことばを出すな。」「ことばを少なくせよ。」。それは同時に聞くこと、神に聞くことを勧めているのです。「神の宮に行くときは、自分の足に気をつけよ。近くに行つて聞くことは、愚かな者たちがいけにえを献げるのにまさる。」

(1)。神さまはあなたがご自分に聞くことを何よりも喜ばれるのです。

9月14日(日)

礼拝説教箇所：伝道者3：1～14 「神の時を共に」

hi-b.a. (高校生聖書伝道協会) の静観大智 (しずみ だいち) スタッフが早朝、主日礼拝で説教してくださいます。本日、静観さんは中高生会でも奉仕してくださいます。静観大智さんのご労を心から感謝します。hi-b.a.の上に、集っている高校生たちがますます成長して、主の福音が多くの若者に届けられますように。

栗原牧師は9/9(火)～16(火)まで休暇中です。お祈りください。